

芦屋大学論叢 第84号
(令和7年7月30日)抜刷

森のようちえん卒園児の学びに向かう力の育ちと要因

－学習態度，学習習慣に着目して－

大 谷 彰 子

森のようちえん卒園児の学びに向かう力の育ちと要因

—学習態度，学習習慣に着目して—

大 谷 彰 子
芦屋大学臨床教育学部

1. 目的

本稿は、森のようちえん卒園児の年少から小学1年までの学びに向かう力の育ちの縦断調査4年目の検証である。森のようちえん卒園児の育ちを、一般の就学前施設（幼稚園・保育所・認定こども園等）（以降、既存園と記載）の卒園児と比較することで、森のようちえん卒園児の就学後の学びに向かう力（社会情動的スキル、認知スキル、学習態度、学習習慣）の育ちの特性と、その成長要因について明らかにすることを目的とする。

これからの教育では、全人類の繁栄や持続可能性、ウェルビーイングに価値を置くことが求められており、子どもの「学び」を深めるために体験学習や主体的な活動が重要で、幼児教育においても「教えから学びへ」（汐見 2023）の転換が求められている。久保（2024）は、子どもの教育において大事なことは、「人間の力を超えたものの力を借りること。そして、「正しいやり方」よりも「その人なりのやり方」を許すこと。失敗や試行錯誤も許すこと。そうすれば、「やりたい！」の火を原動力にして、試行錯誤を続け、「やった！できた！」に至ります。これが「教わらなくても、人は、学ぶ」ということの正体である」としている。その際、自然の力が重要で、大田（1992）は、「自然というものは、センス・オブ・ワンダーを子どもから引き出すと同時に、自然そのものがいろいろな興味を引き起こしてくれます。つまり、教えたがらないところに、自然のよさがある」としている。

保育における自然との関わりの重要性は、幼稚園教育要領や保育所保育指針等にも記されており、自然との関わりを保育の中心に据えた森のようちえんの研究が近年多方面からなされている。

森のようちえんの子どもの育ちについては、ヘフナー（Häfner, P.佐藤, 2007）が、一般的な幼稚園のように一斉に座っている経験が少ない森のようちえんの子どもは、小学校の授業に集中できないのではといった保護者の不安に対し、ドイツ国内の調査で、森の卒園児と一般的な幼稚園卒園児の育ちを比較し、動機づけ・集中力・忍耐、社会的能力、授業中の協働において森のようちえんの方が優位であることを明らかにした。社会情動的スキルの育ちに関する研究では、山口ら（2021）が、レジリエンスと自尊感情の育ちについて、森のようちえんの子どもはレジリエンスに関連する項目において有意に高く、自尊感情に関しては自己否定的な項目について有意に低い結果との検証をおこなった。また、友定氏（2012）は、自然の中で子ども相互の関わりを通して、問題を設定し解決を探究するプロジェクト型の活動において、協同することで「人とかかわる」力が養われていると、その形成過程を分析している。木戸（2016）は、自然の中では保育者の了解を得ずに自分で考えて遊ぶことで主体的で自立的な育ちがあることを示唆している。中西ら（2010）は、一人の子どもに焦点を当て、自然との相互作用における変容プロセスについて、他者との関わりに着目して検証し、活動内容が一斉活動から自由度の高い活動になるに従って、A児の活動への夢中度が増し、他者とのかかわりも広がりを見せていくとしている。下村ら（2025）は、森のようちえん卒園児の非認知的特質の傾向を示すことを目的とし、大学生世代を対象として、内閣府や日本財団が調査している

我が国の若者一般の意識と比較し、①卒園児同士の心理的つながりの深さ、②自己肯定感の高さ、③リーダーシップを含む参画意識の高さ、の3つの注目される傾向があったと述べた。他に、10の姿の特徴を認可保育園との比較から検証したもの（吉澤ら、2021）、協調性や協働性についての柳原（2018）、杉山ほか（2015）の検証、挑戦や忍耐力の育成についての金子・西澤（2017）、西澤ほか（2016）の研究などが見られる。

一方、認知的スキルの育ちについては、柳原（2019）により園児の行動や言動を参与観察法で調査し、認知的発達の側面からみた育成の過程を、6つのサイエンス・プロセス・スキルの視点で考察し、園児たちはすべてのサイエンス・プロセス・スキルを習得し育成しているという検証がなされているものの、他に認知的スキルについての検証は殆ど見当たらない。

森のようちえんの卒園児の就学後の学びに向かう力（社会情動的スキル、認知スキル、学習態度、学習習慣）について検証することは、森のようちえんの保育の中期的な意義の検証や、森のようちえんの保育者や園に通う子どもの保護者の安心感や自信にもつながる研究であると考ええる。

本稿は森のようちえん全国ネットワーク連盟の承認を受け、森のようちえんの保護者を対象に2020年度からの縦断調査4年目の検証である。森のようちえん卒園児の育ちを、既存園の卒園児と比較することで、森のようちえん卒園児の就学後の学びに向かう力（社会情動的スキル、認知スキル、学習態度、学習習慣）の育ちの特性と、その成長要因について明らかにしていく。

2. 方法

2.1 対象者

全国の日常型森のようちえん95園の卒園児（1年生）の保護者63件。

2.2 調査時期

2024年2月～3月に自記式アンケートとwebによるアンケートのQRコードを添付した資料を各森のようちえんに郵送し、園から卒園児（1年生）の保護者にアンケートの依頼をお願いした。結果は、2024年3月～4月に回収した。

2.3 分析方法

本研究でのアンケートは、NPO法人ネイチャーマジック森のようちえんさんぽみち 野澤俊索理事長と協同で作成したものである。質問項目は、ベネッセ教育総合研究所（2016）「幼児期から小学校1年生の家庭教育調査 縦断調査」と（2023）「幼児期から中学生の家庭教育調査 縦断調査」から採用し、表現に若干の変更を加えたものに、森のようちえんならではの質問項目を加え作成した。質問はすべて4件法で回答を求めた。比較対象として、前述のベネッセの保護者アンケート（調査地域：日本全国、対象：年少児から小学校1年生までの縦断調査に同意し、調査に中断することなく継続して参加した母親、サンプル数：年少1905、年中1460、年長1074、小学1年544件。調査時期：年少児2012年、年中児2013年、年長児2014年、小学1年2015年）の結果を用いた。以降、森のようちえんの比較対象として「既存園」と記述する。相関分析はIBM SPSS バージョン29.0を用い、spearmanの相関係数と有意確率（両側）を記載した。

2.4 倫理的配慮

アンケートの実施に際して、NPO 法人森のようちえん全国ネットワーク連盟理事会に研究の趣旨やアンケート内容、個人情報の遵守などを説明し承認を得た。アンケートには、調査の目的・倫理的配慮を記して無記名とし、回答は統計的に処理され個人が特定されることはないこと、回答しづらい項目については、「答えられない」の選択肢を設けたことを明記した。また、前述のベネッセの保護者アンケートの結果を引用したが、引用にあたっては、ベネッセ教育研究所のHPに「研究・教育、その他の公的な目的の場合は、ご自由に引用・転載していただいて構いません。」との記載があり、出典記載例に則って出典を引用・参考文献に明記している。

3. 結果

3.1 森のようちえん卒園児の社会情動的スキルの育ち

社会情動的スキル 15 項目を【好奇心】【協調性】【自己主張】【自己抑制】【がんばる力】に分類し、森のようちえんと既存園の年少から小1の変化を比較した結果が図1～図5である。保護者が「とてもあてはまる」を選択した割合を記載している。

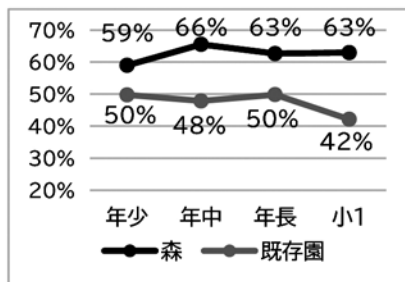


図1 好奇心

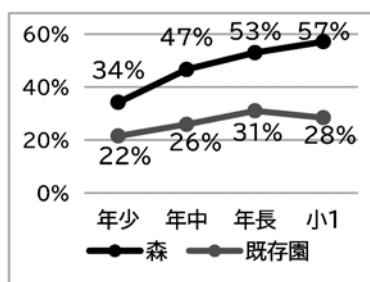


図2 協調性

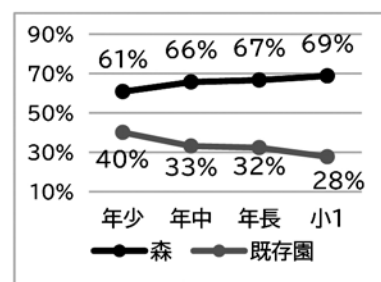


図3 自己主張

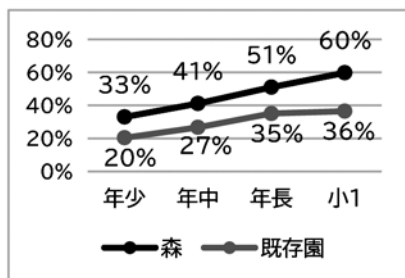


図4 自己抑制

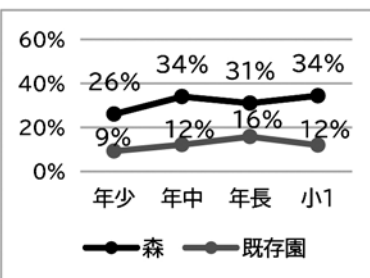


図5 がんばる力

すべての項目と学年で、既存園よりも森のようちえんの方が身についており、学年が上がることでその差が広がる結果であった。小1の時点で2倍以上の差がついた項目は、【協調性】（森57%、既28%）、【自己主張】（森69%、既28%）、【がんばる力】（森34%、既12%）であった。森のようちえんは、【好奇心】以外のすべての項目で小1の割合が一番高かったが、既存園では【自己抑制】以外のすべての項目で年長より小1が減少する結果であった。森のようちえんの社会情動的スキルの育ちとして、【協調性】と【自己抑制】は概ね右肩上がりで上昇し、【好奇心】【自己主張】【がんばる力】はほぼ横ばいという結果であった。一方、既存園は【協調性】と【がんばる力】がほぼ横ばい、【自己主張】と【好奇心】が概ね右肩下がりという結果であった。中でも既存園の【好奇心】【自己主張】は、年少から減少を続ける結果であった。

3.2 森のようちえんでの認知スキルの育ち

森のようちえんと既存園の認知スキル【言葉スキル】【数】【論理性】【分類する力】の育ちの変化を比較したグラフが図6～図9である。保護者が「とてもあてはまる」を選択した割合を記載している。

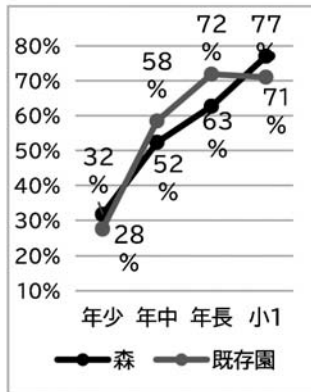


図6 言葉スキル

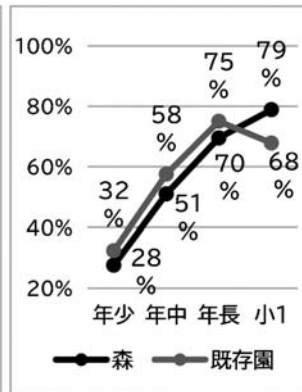


図7 数

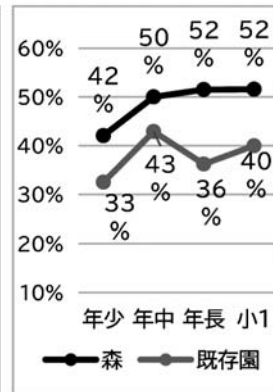


図8 論理性

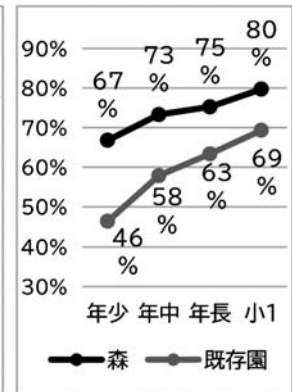


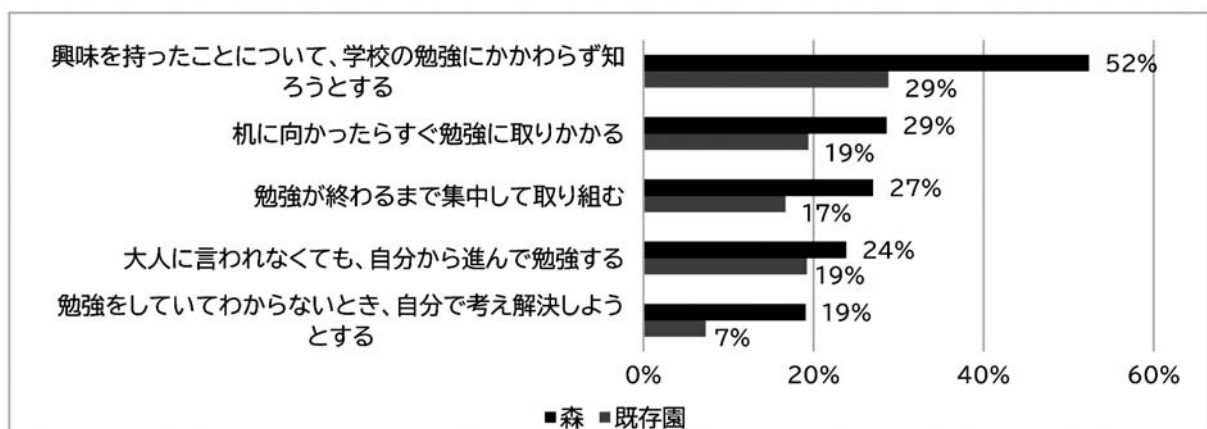
図9 分類する力

【言葉スキル】は年中、年長、【数】は年少、年中、年長で既存園の方が高かったが、どちらも小1で森のようちえんの方が高くなっている。【言葉スキル】【数】といった読み書きに関するスキルは、森のようちえんの方が既存園よりも身につく時期が遅いことが示唆された。一方、【論理性】【分類する力】は年少から小1まで森のようちえんが高く、小1では【論理性】が既存園40%、森のようちえん52%、【分類する力】は既存園69%、森のようちえん80%と10ポイント以上の差が認められた。【論理性】【分類する力】といった、知識を生活する中で応用する力は、森のようちえんの方が長けている結果であった。

3.3 学習態度と学習習慣の特徴

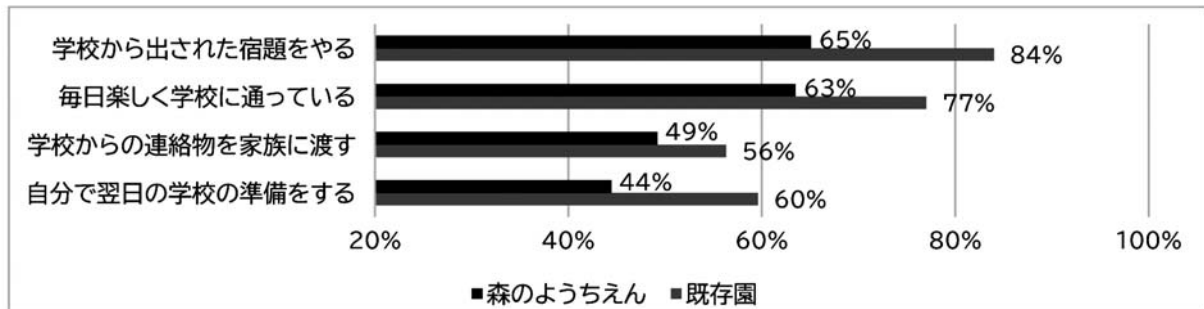
森のようちえんと既存園の小1での学習の様子について、「学習態度」を比較したグラフが図10、「学習習慣」を比較したグラフが図11である。保護者が「とてもあてはまる」を選択した割合を記載している。

図10 学習態度



「学習態度」はすべての項目で森のようちえんが高く、特に「興味を持ったことについて、学校の勉強にかかわらず知ろうとする」（森 52%，既 29%）という知的好奇心は 20 ポイント以上高かった。森のようちえん卒園児は、自ら学ぼうとする主体性や、学びに向かう意欲が高いことが示唆された。

図 11 学習習慣



一方、「学習習慣」についてはすべての項目で森のようちえんの方が低く、特に「学校から出された宿題をやる」（森 65%，既 84%）といった指示された課題をこなしたり、「自分で翌日の学校の準備をする」（森 44%，既 60%）、「学校からの連絡物を家族に渡す」（森 49%，既 56%）といった決められたルーティンをこなすことは苦手であるという結果であった。また、「毎日楽しく学校に通っている」（森 63%，既 77%）は、「とても思う」と「少し思う」を合わせると既存園が 98% に対し、森のようちえんは 86% であった。子どもが学校に楽しく通うことに対して「あまり思わない」「ほとんど思わない」を選択した割合が 14% あり、森のようちえんの卒園児は 7.1 人にひとりが小 1 の段階で小学校を楽しんでいると思っていないという結果であった。

3.4 「社会情動的スキル」と「園での体験」「保護者の援助」の相関

「社会情動的スキル」24 項目の育ちと森のようちえん在園時の「園での体験」、現在の「保護者の援助」の相関を検証し、「園での経験」では 3 項目以上、「保護者の援助」では 5 項目以上で 1% 水準で有意な関連が認められた項目の spearman の相関係数と有意確率（両側）を一覧にしたものが表 1 である。相関係数が「.400」以上の箇所をグレーの網掛けで示している。

		園での経験				保護者の援助				
		遊びこむ経験		共同的な活動		意欲の尊重		思考の促し		
		見通しをもって、遊びをやり遂げる	挑戦的な活動に取り組む	友だちのいいところや得意なことを知る	行事の役割を子どもたちが決める	叱るとき、言い分を聞くようにしている	指図せずに子どもに自由させている	やりたいことを尊重し支援している	質問に自分で考えられるよううながす	子どもと互いに感じたことを話し合う
	相関のある項目数	13	3	12	10	15	11	5	11	5
がんばる力	ものごとをあきらめずに挑戦できる	.409***	.370**	.382**	.302*				.363**	
	工夫して達成しようとする	.501***	.419***	.417***	.267*	.349**	.256*		.472***	
	一度始めたことは最後までやり通せる	.272*	.272*	.302*	.273*	.381**	.352**	.317*	.401***	.281*
自己抑制	ルールを守りながら遊べる	.440***		.352**	.258*	.368**	.253*	.287*		
	順番が回ってくるまで待てる	.307*		.267*	.286*	.252*				
	人のいやがることは我慢できる	.306*				.314*	.381**	.280*	.292*	
協調性	遊びを中断されても続けられる					.294*	.271*		.395***	
	遊びで友達と協力することができる	.431***		.370**	.301*	.268*				
	いれて、貸してなど声掛けができる	.331**		.390**	.342**					
好奇心	けんかしても謝るなど仲直りができる	.391**		.367**		.303*	.385**		.332**	
	気持ちを伝えたり相手の意見を聞ける					.309*	.314*	.278*		
	わからないことについて質問ができる	.265*		.328**	.332**	.287*				.348**
自己主張	工夫して遊べる	.265*		.335**		.253*			.281*	.266*
	周りの人に助けを求めることができる			.267*		.261*	.310*		.357**	.264*
	欲しいもの、して欲しいことを頼める				.250*		.333**	.282*	.262*	.283*

*** 相関係数は 0.1% 水準で有意（両側） ** 1% 水準で有意（両側） * 5% 水準で有意（両側）

表 1 「社会情動的スキル」と「園での体験」「保護者の援助」の相関

「園での経験」（【遊びこむ経験】6項目、【設定的な活動】4項目、【共同的な活動】4項目）のうち、「社会情動的スキル」の育ちと相関のあった経験1位は、【遊びこむ経験】の「見通しをもって遊びをやり遂げる」13項目、2位は【共同的な活動】の「友達のいいところや得意なことを知る」12項目、3位は【共同的な活動】の「行事の役割を子どもたちが決める」10項目であった。また、森のようちえんの経験を通して身につく力は、1位「工夫して達成しようとする」、2位「ものごとをあきらめずに挑戦できる」、3位「一度始めたことは最後までやり通せる」とすべて「社会情動的スキル」の【がんばる力】であった。【設定的な活動】の「小学校のように時間割に沿って活動をする」経験では、「社会情動的スキル」の育ちとの相関は認められなかった。

「保護者の援助」では、【意欲の尊重】6項目、【思考の促し】と【学びの環境】各4項目のうち、「社会情動的スキル」の育ちと相関のあった援助1位は、【意欲の尊重】の「叱るとき言い分を聞くようにしている」15項目、2位も【意欲の尊重】の「指図せずに子どもに自由にさせている」11項目、同率2位【思考の促し】「質問に自分で考えられるようにうながす」11項目であった。相関が強かったのは、【思考の促し】「質問に自分で考えられるようにうながす」と【がんばる力】であった。「子どもと一緒に数を数えている」や「どうしたら良いか細かく教えている」など子どもに教えるといった指導的な援助との相関は認められなかった。

3.5 「認知スキル」と「園での体験」「保護者の援助」の相関

「認知スキル」16項目の育ちと「園での体験」「保護者の援助」の相関を検証し、「園での経験」では3項目以上、「保護者の援助」では5項目以上で1%水準で有意な関連が認められた項目の spearman の相関係数と有意確率（両側）を一覧にしたものが表2である。相関係数が「.400」以上の箇所をグレーの網掛けで示し、マイナスの相関の箇所は太枠で示している。

		園での経験				保護者の援助				
		遊びこむ経験	共同的な活動		設定的な活動	思考の促し		意欲の尊重		学びの環境
			友だちのいいところや得意なことを知る	行事の役割を子どもたちが決める		質問に自分で考えられるようにうながす	子どもと互いに感じたことを話し合う	やりたいことを尊重し支援している	指図せずに子どもに自由にさせている	
	相関のある項目数	7	6	3	-2	9	6	6	5	5
言葉	言葉遊びができる		.253*	.315*		.253*				
	絵本や図鑑を一人で読める								.273*	
数	二桁の足し算・引き算ができる	.306*	.434***				.258*			
	指を使って足したり引いたりできる	.252*	.348**			.403***				
	100をこえた数を数えることができる									.330**
論理性	順序をたてて相手にわかるように話せる	.433***		.273*		.304*	.307*	.293*	.308*	.309*
	理由を話すことができる	.437***			-.257*	.430***	.353**	.344**	.317*	.367**
	見聞きしたことの話をすることができる			.257*	-.302*	.316*	.313*	.383**	.288*	
	テーマで自分で話を作ることができる	.281*				.277*			.268*	
分類する力	言葉で多い・大きいを正しく使える	.408***	.312*				.270*	.267*		.342**
	形について同じ仲間を集められる		.381**			.413***	.429***	.269*		.320*
	生活の場面で形にかかわる言葉を使える		.295*			.462***		.383**		
	長さや大きさを並べて比べられる	.293*				.290*				

*** 相関係数は 0.1% 水準で有意（両側） ** 1% 水準で有意（両側） * 5% 水準で有意（両側）

表2 「認知スキル」と「園での体験」「保護者の援助」の相関一覧

「認知スキル」を育む要因として、森のようちえんでの経験1位は、【遊びこむ経験】「見通しをもって遊びをやり遂げる」7項目、2位は【共同的な活動】「友達のいいところや得意なことを知る」6項目、3位は【共同的な活動】「行事の役割を子どもたちが決める」3項目と、「社会情動的スキル」を育む要因の1から3位とまったく同じ結果であった。【設定的な活動】の「全員で同じことに取り組む」経験では、【論理性】の育ちにマイナスの相関が認められた。

「認知スキル」と相関のあった「保護者の援助」1位は、【思考の促し】「質問に自分で考えられるようにうながす」、2位も【思考の促し】「子どもと互いに感じたことを話し合う」であったが、3位以降は「社会情動的スキル」の1から3位と同じで、3位【意欲の尊重】「やりたいことを尊重し支援している」、4位も【意欲の尊重】「指図せずに子どもに自由にさせている」、同率4位【学びの環境】「興味を示したら学べるよう環境を整える」であった。

3.6 「学習態度」と「社会情動的スキル」「認知スキル」の相関

「学習態度」5項目と「社会情動的スキル」「認知スキル」の相関を検証し、「学習態度」3項目以上で相関が認められたスキルの spearman の相関係数と有意確率（両側）を一覧にしたものが表2である。相関係数が「.500」以上の箇所を濃いグレーで「.400」以上の箇所を薄いグレーの網掛けで示している。

			興味に学校の 勉強によらず 知ろうとする	机に向かった らすぐ勉強に 取りかかる	勉強が終わる まで集中して 取り組む	大人に言われ なくても自分 から勉強する	わからないと き自分で考え 解決する
社会情動的 スキル	がんばる力	一度始めたことは最後までやり通せる	.564***	.553***	.609***	.375**	.628***
		ものごとをあきらめずに挑戦できる	.368**	.362**	.510**	.332**	.567**
		工夫して達成しようとする	.364**	.403***	.385**	.351**	.562***
		どんなことにも自信を持って取り組める		.318*	.400***	.470***	
	自己抑制	遊びを中断されても続けられる	.255*	.395***	.327**	.394***	.425***
		人のいやがることは我慢できる	.276*	.362**	.396***	.403***	.350**
		夢中なことでも次に移ることができる		.264*	.348**	.381**	.263*
		順番が回ってくるまで待てる	.287*		.317*	.322*	.329**
	協調性	話が終わるまで静かに聞ける		.260*	.378**		.379**
		けんかしても謝るなど仲直りができる	.305*	.295*	.423***	.320*	.381**
		気持ちを伝えたり相手の意見を聞ける	.468***		.376**		.263*
		遊びで友達と協力することができる4		.328**	.339**		.390**
	自己主張	欲しいもの、して欲しいことを頼める	.524***		.419***		.273*
		周りの人に助けを求めることができる	.268*		.317*	.249*	
認知 スキル	論理性	順序をたてて相手にわかるように話せる	.408***	.255*	.407***		.419***
		理由を話すことができる	.449***		.323**		.435***
	言葉スキル	絵本や図鑑を一人で読める	.347**	.279*	.365**	.275*	.405***
	分類する力	言葉で多い・大きいを正しく使える	.444***		.374**		.267*

*** 相関係数は 0.1% 水準で有意（両側） ** 1% 水準で有意（両側） * 5% 水準で有意（両側）

表3 「学習態度」と「社会情動的スキル」「認知スキル」の相関一覧

「学習態度」と「社会情動的スキル」「認知スキル」の相関を検証したところ、「学習態度」3項目以上の相関が認められたスキルは、「社会情動的スキル」14項目、「認知スキル」4項目であった。その内訳は、「社会情動的スキル」の【がんばる力】4項目、【自己抑制】5項目、【協調性】3項目、【自己主張】2項目、「認知スキル」の【論理性】2項目、【言葉スキル】1項目、【分類する力】1項目であった。「学習態度」の育ちには、「認知スキル」よりも「社会情動的スキル」の育ちが影響しており、特に「一度始めたことは最後までやり通せる」「ものごとをあきらめずに挑戦できる」「工夫して達成しようとする」といった【がんばる力】の育ちに相関が認められた。

る力】との相関が強く、次に「遊びを中断されても続けられる」「人のいやがることは我慢できる」といった【自己抑制】の育ちが「学習態度」にポジティブに影響している。「認知スキル」では、「欲しいもの、してほしいことを頼める」といった【自己主張】や、「順序たてて相手にわかるように話せる」【論理性】、「絵本や図鑑を一人で読める」【言葉スキル】といった項目との相関も認められた。

3.7 「学習態度」と「保護者の関わり」「園での体験」の相関

森のようちえん卒園児の「学習態度」5項目の育ちと「保護者の関わり」19項目（【意欲の尊重】6項目、【思考の促し】4項目、【学びの環境を整える】4項目、【その他】5項目）の相関を検証し、3項目以上で相関が認められた関わりの spearman の相関係数と有意確率（両側）を一覧にしたものが表3である。相関係数が「.400」以上の箇所をグレーの網掛けで示している。

			興味を持ったことについて、学校の勉強にかかわらず知ろうとする	机に向かったら、すぐ勉強に取りかかる	勉強が終わるまで集中して取り組む	大人に言われなくても自分から進んで勉強する	勉強をしていて、わからないとき、自分で考え、解決しようとする
保護者の関わり	叱るとき、言い分を聞くようにしている	意欲の尊重	.386**	.254*	.395***	.319*	.431***
	指図せずに子どもに自由にさせている		.334**		.447***		.389**
	やりたいことを尊重し支援している		.339**		.284*		.289*
	叱るよりも褒めるようにしている		.337**				.390**
	まず子どもの気持ちを受け止める		.340**				.315*
	質問に自分で考えられるようにうながす	思考の促し	.249*	.332**	.290*	.262*	.462***
	多様な遊び方を気づかせようとする			.280*	.255*	.330**	.433***
	興味を示したら学べるよう環境を整える	学びの環境	.457***				.310*

*** 相関係数は 0.1% 水準で有意（両側） ** 1% 水準で有意（両側） * 5% 水準で有意（両側）

表4 「学習態度」と「保護者の関わり」の相関一覧

「保護者の関わり」のうち「学習態度」と2項目以上、正の相関が認められた関わりは8項目であった。そのうち【意欲の尊重】が5項目、【思考の促し】が2項目、【学びの環境】が1項目であった。「学習態度」を育む要因として、保護者の「叱るとき言い分を聞くようにしている」「指図せずに子どもに自由にさせている」など【意欲の尊重】の関わりが重要であることが示唆された。そして、すべての「学習態度」と正の相関が認められたのは、【意欲の尊重】「叱るとき、言い分を聞くようにしている」と【思考の促し】「質問に自分で考えられるように促す」の2項目であった。

この表には記載はないが、「大人に言われなくても自分から勉強する」と森のようちえん在園時の「森（自然）の中にいる時間」には、弱いながらも負の相関（-.289*）が認められた。

4. 考察

4.1 「社会情動的スキル」と「認知的スキル」の育ちとそれを育む要因

「社会情動的スキル」は、すべての項目と学年で既存園よりも森のようちえんの方が身につけており、学年が上がることでその差が広がる結果であった。森のようちえんは、【好奇心】以外のすべての項目で小1の結果が一番高かったが、既存園では【自己抑制】以外のすべての項目で年長より小1が減少する結果であった。

「社会情動的スキル」「認知スキル」の育ちの要因は、森のようちえん在園時の経験では、共に1位は【遊びこむ経験】「見通しをもって遊びをやり遂げる」、2位は【共同的な活動】「友達のいいところや得意なことを知る」、3位は【共同的な活動】「行事の役割を子どもたちが決める」であった。また、「保護者の援助」では、「社会情動的スキル」の育ちの要因は【意欲の尊重】「叱るとき言い分を聞くようにしている」、【意欲の尊重】「指図せずに子どもに自由にさせている」、【思考の促し】「質問に自分で考えられるようにうながす」であった。「認知スキル」は、そこに【思考の促し】「質問に自分で考えられるようにうながす」、【思考の促し】「子どもと互いに感じたことを話し合う」が加わっているが、「社会情動的スキル」「認知スキル」を育む要因としての経験や保護者の援助には大きな違いが認められなかった。また、「社会情動的スキル」「認知スキル」の育ちに、「性別」「父親・母親の年齢」「森のようちえんに通う日数」「森（自然）の中にいる時間」との相関は、ほとんど認められなかった。

4.2 「学習態度」の育ちとその要因

「学習態度」はすべての項目で森のようちえんが高く、特に知的的好奇心については20ポイント以上高かった。森のようちえん卒園児は、自ら学ぼうとする主体性や知的的好奇心、学びに向かう意欲が既存園と比べて高いことが示唆された。

「学習態度」を育む要因として「社会情動的スキル」では、特に「一度始めたことは最後までやり通せる」「ものごとをあきらめずに挑戦できる」「工夫して達成しようとする」といった【がんばる力】との相関が強く、【自己抑制】【協調性】【自己主張】との相関も認められた。「認知スキル」では【論理性】【言葉スキル】【分類する力】が挙げられたが、「学習態度」の育ちには、「認知スキル」よりも「社会情動的スキル」の育ちが重要な要因になっている結果であった。また「保護者の援助」では、「叱るとき言い分を聞くようにしている」「指図せずに子どもに自由にさせている」など【意欲の尊重】が重要で、すべての「学習態度」と正の相関が認められたのは、「叱るとき、言い分を聞くようにしている」【意欲の尊重】と「質問に自分で考えられるように促す」【思考の促し】の2項目であった。

4.3 「学習習慣」と「学校に楽しく通う」の育ちの要因

「学習習慣」についてはすべての項目で森のようちえんの方が低く、特に大人に指示されたり、決められたルーティンをこなすといった自ら主体的に決定していないことは苦手で、7.1人にひとりが小1の段階で小学校を楽しんでいると思っていない結果であった。その「学習習慣」の育ちに相関の強かったスキルは、「社会情動的スキル」の【自己抑制】4項目、【がんばる力】3項目、【自己主張】1項目、「認知スキル」の【論理性】2項目、【言葉】2項目であったが、「学習習慣」4項目中、3項目以上で相関の認められたスキルはなかった。

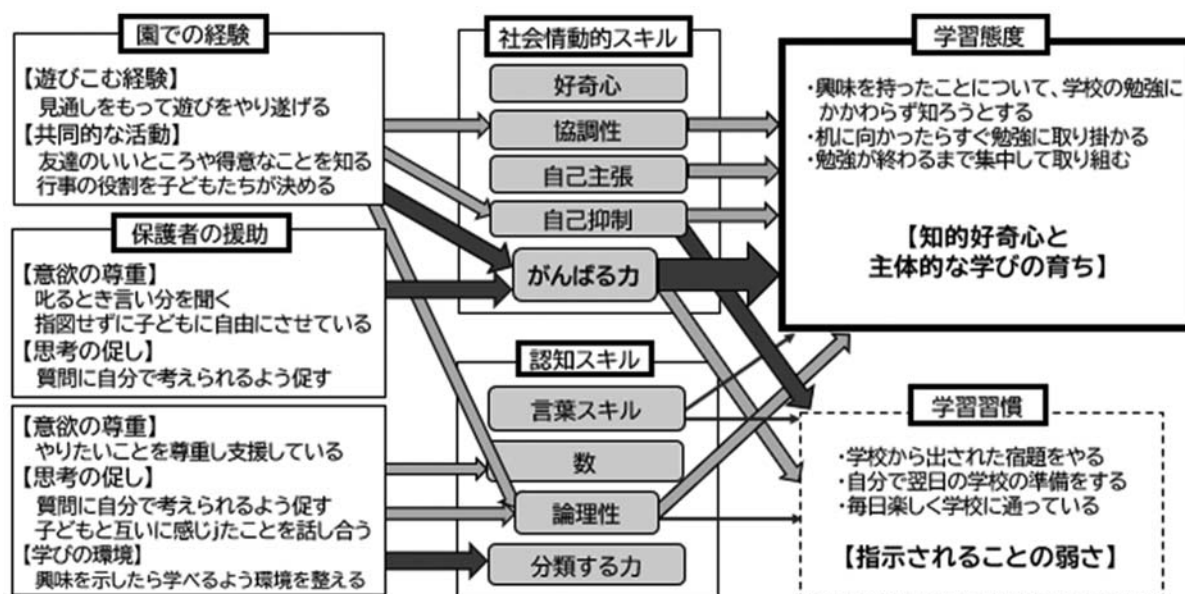
「学習習慣」のうち、「学校に楽しく通う」と相関のあった項目は、「遊びを中断されても続けられる」「人のいやがることは我慢できる」「順番が回ってくるまで待てる」といった【自己抑制】、「どんなことにも自信を持って取り組める」【がんばる力】、「遊びで友達と協力することができる」【協調性】といった自身の気持ちを制御する力、自己肯定できる力、友だちと協働できる力といった「社会情動的スキル」と「絵本や図鑑を一人で読める」【言葉】の「認知スキル」であり、「学校に楽しく通う」ためには、これらの能力を幼児期に育むことが有効であることが示唆された。

一方、「学校に楽しく通う」と、「性別」「自然の中にいる時間」「森のようちえんでの経験」「保護者の援助」に相関は認められなかった。

4.4 森のようちえん卒園児の育ちの相関図

森のようちえん卒園児の「園での経験」「保護者の援助」「社会情動的スキル」「認知スキル」「学習態度」「学習習慣」との相関を図示したものが図12である。小1の時点で身につけている割合が高い「社会情動的スキル」と「認知スキル」を大きく図示し、相関の強さを矢印の太さと濃さで示している。

図12 森のようちえん卒園児の育ちの相関図



森のようちえんでの【遊びこむ経験】「見通しをもって遊びをやり遂げる」、【共同的な活動】「友達のいいところや得意なことを知る」「行事の役割を子どもたちが決める」といった経験と、保護者の【意欲の尊重】「叱るとき言い分を聞くようにしている」、【意欲の尊重】「指図せずに子どもに自由にさせている」、【思考の促し】「質問に自分で考えられるようにうながす」といった関わりが、【がんばる力】などの社会情動的スキルを育み、その【がんばる力】が【知的好奇心と主体的な学びの育ち】につながっている。

一方で、子どもの主体性を尊重する保育者や保護者から教えられたり指示をされる経験の少ない森のようちえんの子どもたちは、指示された課題やルーティンをこなすことが苦手で、約7人に一人が小学校に毎日楽しく通えていない。その「毎日楽しく学校に通っている」と相関の認められた、【自己抑制】「遊びを中断されても続けられる」「人のいやがることは我慢できる」、【がんばる力】「どんなことにも自信を持って取り組める」を幼児期に育むことが、充実した児童期を迎えることにつながるといえることが示唆された。

4.5 今後の研究

今回の調査は、森のようちえんの「学びに向かう力」の育ちに関する縦断調査の4年目の結果である。今後引き続き縦断調査を行い、自然体験を重視した森のようちえんの長期的な育ちについて、就学後の子どもの学びに向かう力の育ちの特性とそこに与える影響について検証していきたい。

【謝辞】

本研究を行うに当たり、アンケートに快くご協力いただきました全国の森のようちえんの保育者、保護者の皆さまに心より御礼申し上げます。また、アンケートを協同で作成していただいた森のようちえんさん ぼみち NPO 法人ネイチャーマジック理事長 野澤俊索様に、心より感謝申し上げます。

【引用・参考文献】

- ・ 汐見 稔幸：『教えから学びへ 教育にとって一番大切なこと』，河出新書，2021.
- ・ 久保健太：『生命と学びの哲学－育児と保育・教育をつなぐ』北大路書房，p.20，2024.
- ・ 大田堯：「特集今、『子どものしあわせ』とは」『子どものしあわせ』1月号，pp.12-27，1992.
- ・ ヘフナー・ペーター著，佐藤 竺訳：『ドイツの自然・森の幼稚園－就学前教育における正規の幼稚園の代替物』公人社，2009.
- ・ 山口三和・酒井真由子・木戸啓絵・大道香織：幼児期の経験がレジリエンスと自尊感情に及ぼす影響－「森のようちえん」の卒園児に注目して－，上越教育大学研究紀要第40巻，pp.495-506，2021.
- ・ 友定啓子『『森のようちえん』の保育的意義－人とのかかわる力を育む視点から－』，山口大学教育学部『研究論叢』第3部，pp. 269-282，2012.
- ・ 木戸啓絵：「森のようちえん」における他機関との連携の実態－三重県の事例から－，岐阜聖徳学園大学短期大学部紀要48，pp.45-58，2016.
- ・ 中西さやか・中坪史典・境愛一郎：「森の幼稚園カリキュラム」における幼児と自然との相互作用に関する研究－他者とのかかわりにみる幼児の変容プロセス－」広島大学大学院教育学研究科紀要 第三部 第59号 p 167-174，2010.
- ・ 下村一彦・宮崎温・渡邊堯宏・請川滋大・滝澤真毅：「大学生世代となった‘こどもの森幼稚園’（森のようちえん）卒園児の非認知的特質の傾向」東北文教大学紀要 15号，pp.1-14，2025.
- ・ 吉澤英里・藪田弘美・前川真姫・安久津太一：森のようちえんの遊びで観察される「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の特徴?認可保育園との比較に基づく一考察?，チャイルド・サイエンス = Child science，子ども学 21，pp.58-61，2021.
- ・ 柳原高文：「森のようちえん」における園児の「アクティブ・ラーニング」および「生活科」とのかかわり，名寄市立大学紀要，12，pp.11-21，2018.
- ・ 杉山浩之・牧亮太・黒田愛乃：森のようちえんにおける子どもへの教育効果～保護者アンケート及びインタビューを通して～，『広島文教教育』，30，pp.23-32，2015.
- ・ 金子龍太郎・西澤彩木：森のようちえんに通う一女児の縦断的観察：主体性の育ちを中心に：3年間記録の1年目』，『幼年教育研究年報』，39，pp.71-80，2017.
- ・ 西澤彩木・田中裕喜・菅真佐子：幼児における自然環境についての学び：「森のようちえん」の活動を通して (1)，『滋賀大学環境総合研究センター研究年報』，13(1)，pp.23-37，2016.
- ・ 柳原高文：「森のようちえん」における園児の「学び」－サイエンス・プロセス・スキルの視点から－，名寄市立大学紀要第13号，pp.45-55，2019.
- ・ ベネッセ：幼児期から小学4年生の家庭教育調査・縦断調査 最終閲覧 2025.5.
https://berd.benesse.jp/up_images/publicity/pressrelease_20190225_.pdf，2019，
- ・ ベネッセ：園での経験と幼児の成長に関する調査 最終閲覧 2025.5.
<https://berd.benesse.jp/jisedai/research/detail1.php?id=4940>，2016

キーワード：森のようちえん，社会情動的スキル，認知スキル，学習態度，学習習慣

英文題名：The development of attitudes towards learning among forest kindergarten graduates and the factors behind it
-Focusing on learning attitudes and learning habits-

